

PRESS Release
報道関係各位

2019年（令和元年）9月11日
東京キャラバン広報事務局

個性あふれる富山の文化と東京のアーティストらが出会い、混じり合い、創作する！

東京キャラバン in 富山

パフォーマンス：2019年11月3日（日・祝）15：00～ 会場：富岩運河環水公園・野外劇場
展示・実演：2019年11月4日（月・休）14：00～ 会場：富山県美術館

「Tokyo Tokyo FESTIVAL」の主要プログラムであり、「東京2020オリンピック・パラリンピック」の公認文化オリンピックののひとつである「東京キャラバン」では、2019年11月3日（日・祝）に富山県富山市湊入船町の富岩運河環水公園・野外劇場にて、11月4日（月・休）は富山県富山市木場町の富山県美術館にて「東京キャラバン in 富山」を開催いたします（観覧無料）。

「東京キャラバン」は、野田秀樹（劇作家・演出家・役者） 総監修のもと、言語や国境、表現ジャンルを超えた多種多様なアーティストたちへの参加を呼びかけ、これまでおおよそ交わることのなかった表現者同士の“文化混流”を実現させることで、新しい表現によるパフォーマンスを創出し続けている“旅する文化ムーブメント”です。

日本中を巻き込み、東京2020大会以降の未来へと続く文化活動のプラットフォームになることを目指し、芸術文化界で活躍する著名人や新しい才能と若きパワー溢れる表現者たちを迎え、全国各地で「文化サーカス」を繰り広げています。

『Walk on ザ・トヤ曼荼羅！』

「東京キャラバン in 富山」を導くのは、気鋭の表現者として知られ、2018年の「東京キャラバン in 高知」を率いた木ノ下裕一（ドラマツルク・木ノ下歌舞伎主宰）。演出を担う北尾亘（振付家・ダンサー・「Baobab」主宰）らとともに富山県を訪れ、富山の歴史や文化を体感し、地域のアーティストたちとの交流を始めています。

今回、地元で活躍している越中いさみ太鼓や合唱、パペットなどを披露する富山の個性あふれる文化の担い手や表現者たちと、北尾をはじめ、東京から参加する俳優やダンサーらがジャンルを超えて混じり合い、共に新しい表現を創り上げます。

果たしてどんなパフォーマンスが花開くのか。数々のわくわくとときどきを生み出してきた「東京キャラバン」は、富山でさらに進化します！ここでしかみることのできない貴重なパフォーマンスを、是非とも“生”で体験してください！



「東京キャラバン in 富山」リサーチの様子

開催概要

- 名称 : 東京キャラバン in 富山
- 日程・会場 : ①パフォーマンス
富山の歴史や文化を体感し、素晴らしい表現者たちと出会い共に創り上げた、この日限りのパフォーマンスを上演します。
日時: 2019年11月3日(日・祝)15:00～
会場: 富岩運河環水公園・野外劇場(富山県富山市湊入船町)
※雨天時はスカイホール(富山県富山市牛島新町5-5)にて実施
- ②展示・実演
会場では「東京キャラバン in 富山」創作の様子を紹介。前日の熱気を携えた参加アーティストたちがそれぞれのオリジナルパフォーマンスを披露します。
日時: 2019年11月4日(月・休)14:00～
会場: 富山県美術館(富山県富山市木場町3-20)
- 観覧 : 無料・事前予約不要・出入り自由
- 参加アーティスト : 木ノ下裕一(ドラマトウルク・「木ノ下歌舞伎」主宰)、北尾亘(振付家・ダンサー・俳優・「Baobab」主宰)、下島礼紗(ダンサー)、夏目慎也(俳優)、西田夏奈子(俳優)、山田茉琳(ダンサー)、米田沙織(ダンサー)、越中いさみ太鼓保存会、太田豊(音楽家)、ジャック・リー・ランダル(パペット)、高岡第一高等学校ダンス部CAD、富山スペシャルコーララストヤマイメン、パフォーマーハルキ ほか
- 参加クリエイター : 青木兼治(映像)、清川敦子(衣裳)、ザ・おめでたズ(ラップバンド)、高岡伝統産業青年会、谷中健一(写真) ほか
- スタッフ : 山道弥栄(演出助手)、佐藤真喜子(演出部)、熊木進(舞台監督)、本郷麻衣(制作) ほか
- 東京キャラバン総監修: 野田秀樹(劇作家・演出家・役者)
- 主催 : 東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、富山県
- 問い合わせ先 : info@tokyocaravan.jp



インターネットライブ中継

「東京キャラバン in 富山」をより多くの方にご覧いただけるよう、①パフォーマンス(11月3日(日・祝)15:00～)を、公式WEBサイトにてライブ中継いたします。

詳しくは、WEBサイトをご覧ください。 <http://tokyocaravan.jp>

※雨天時は会場及びプログラムを変更して実施します。

※出演者やプログラム内容は予告なく変更になる場合があります。

「循環する足音」

富山を歩き、富山を見聞き、富山について考えている時、私の耳に聴こえてきたのは“循環する音”だったような気がします。日本列島をぐるりと囲むように走る北前船、薬を売り歩く商人、立山を彷徨い歩く山伏や巡礼の人々、立山曼荼羅を携えて諸国を絵解きして歩く人、仏像を彫り歩く円空……。富山を起点にしながら、あるいは富山を中継点にしながら、物資や薬品から信仰や知恵までをも手一杯に抱え、諸国へ届け、循環運動を続けた人々の足音が聴こえてきました。いくつもの険しい波や峠を越えても、なお届けようとした、それら富山の“循環する足音たち”への敬意を、作品に込めることはできないだろうか。それも、滔々と流れる運河を借景にした野外舞台で。2019年(いま)の富山という場所で、過去の富山を絵解きしつつ、未来の富山を、思いっきり祝福するような、そんな舞台を目指します!

木ノ下裕一(ドラマトウルク・「木ノ下歌舞伎」主宰)

「東京キャラバン」とは？

「東京キャラバン」は、東京都及び公益財団法人東京都歴史文化財団が2020年に向けて、芸術文化都市東京の魅力を伝える取組「Tokyo Tokyo FESTIVAL」の主要プログラムとして実施しています。劇作家・演出家・役者である野田秀樹の発案により、多種多様なアーティストが出会い、国境／言語／文化／表現ジャンルを超えて、“文化混流”することで、新しい表現が生まれるというコンセプトを掲げ、それぞれのジャンルを超えたパフォーマンスを各地で展開しています。「東京2020オリンピック・パラリンピック」の文化プログラムを先導するリーディングプロジェクトとして実施した2015年の東京・駒沢に始まり、2016年にリオデジャネイロ、東北(仙台・相馬)、六本木、2017年は京都(二条城・亀岡)、八王子、熊本にて、松たか子(女優)、中納良恵／EGO-WRAPPIN'(ミュージシャン)、津村禮次郎(能楽師)、2018年は豊田、高知、秋田にて、黒木華(女優)、熊谷和徳(タップダンサー)、チャラン・ポ・ランタン(アーティスト)など芸術文化界で活躍する様々な著名人が参加し、それぞれの圧倒的なパフォーマンスで48,600人以上の観覧者を魅了しました。2017年度からは「東京2020公認文化オリンピック」(注)として本格始動し、日本全国の自治体(道府県、政令指定都市、中核市)の中から立候補を募り、共感いただいた44の地域から開催候補地を選出し、2019年度はいわき市、埼玉県、富山県、岡山県、北海道での実施が決定しました。今後さらに全国各地で「文化サーカス」を繰り広げていくとともに、国や地域を超えた交流を継続的に図ることで、東京2020大会以降の文化的な基盤を創っていきます。

東京キャラバン公式ウェブサイト：<http://tokyocaravan.jp>



東京キャラバン～プロローグ～(2015年)
撮影：井上嘉和



東京キャラバン in RIO(2016年)



東京キャラバン in 東北(2016年)



東京キャラバン in 六本木(2016年)
撮影：篠山紀信



東京キャラバン in 京都(2017年)
撮影：井上嘉和



東京キャラバン in 秋田(2018年)
撮影：コンドウダイスケ

本リリースに関するメディアお問い合わせ先
東京キャラバン広報事務局 担当：岩川・銭谷
TEL: 03-6826-8708 Email: press@tokyocaravan.jp

参加アーティスト from 東京キャラバン

リーディングアーティスト:木ノ下裕一(ドラマトルク・「木ノ下歌舞伎」主宰)



撮影:東尚子(Naoko Azuma)

1985年7月4日、和歌山市生まれ。小学校3年生の時、上方落語を聞き衝撃を受けると同時に独学で落語を始め、その後、古典芸能への関心を広げつつ現代の舞台芸術を学ぶ。2006年に古典演目上演の補綴・監修を自らが行う木ノ下歌舞伎を旗揚げ。代表作に『娘道成寺』『黒塚』『東海道四谷怪談-通し上演-』『心中天の網島』『義経千本桜-渡海屋・大物浦-』『糸井版 摂州合邦辻』など。2015年に再演した『三人吉三』にて読売演劇大賞2015年上半期作品賞にノミネート、2016年に上演した『勸進帳』の成果に対して、平成28年度文化庁芸術祭新人賞を受賞。平成29年度芸術文化特別奨励制度奨励者。渋谷・コクーン歌舞伎『切られの与三』(2018)の補綴を務めるなど、外部での古典芸能に関する執筆、講座など多岐にわたって活動中。公益財団法人セゾン文化財団ジュニア・フェロー。

演出:北尾亘(振付家・ダンサー・俳優・「Baobab」主宰)



撮影:bozzo

1987年兵庫県生まれ神奈川県育ち。幼少期よりミュージカルを中心に舞台芸術に関わり、クラシックバレエからストリートダンスまで多様なジャンルを経験。2006年より木佐貫邦子に師事。2009年ダンスカンパニー「Baobab」を旗揚げ、全作品の振付・構成・演出を担う。単独公演のほか国内外のフェスティバルに参加。若手ダンスアーティストへ向けたフェスティバル『DANCE×Scrum!!!』を主催、自らディレクターも務める。振付家として多数の演劇作品・TVCM・ドラマ・映画に振付。連続テレビ小説『半分、青い。』での振付が好評を博す。日本全国でWS講師やアウトリーチ活動を展開し、ダンスの普及活動にも積極的に取り組む。ダンサー・俳優として近藤良平(コンドルズ)、多田淳之介(東京デスロック)、杉原邦生(KUNIO)、中屋敷法仁(柿喰う客)、山本卓卓(範宙遊泳)などの作品に出演。4カ国20都市以上で舞台に立つ。俳優4人の演劇ユニット「さんびん」メンバーとしても活動。表現の場は多岐にわたる。横浜ダンスコレクション2018 コンペティション I『2020』ベストダンサー賞、第3回エルスール財団新人賞、トヨタコレオグラフィアワード2012『vacuum』オーディエンス賞など 受賞多数。尚美学園大学舞台表現学科、桜美林大学芸術文化学群 非常勤講師

下島礼紗(振付家・ダンサー・「ケダゴロ」主宰)



撮影:Sato Mizuki

1992年生まれ。鹿児島県出身。7歳より地元鹿児島にてダンスを始め、よさこい踊りを中心に活動。桜美林大学にて、コンテンポラリーダンスを木佐貫邦子に師事。これまで、木佐貫邦子、伊藤千枝子(元珍しいキノコ舞踊団)、近藤良平(コンドルズ)作品等に出演。また演劇分野では、鐘下辰男(演劇企画集団THE・ガジラ)・伊藤和重(IN EASY MOTION)作品等に出演。2013年にダンスカンパニー〈ケダゴロ〉を立ち上げ、全作品の振付・演出を行っている。「人間味溢れる偏愛的作品の創作」をスローガンに掲げ、作品発表を通じて、人と出会い・世の中を学び・自らの考え生むことを目的に、国内外で活動中。

ソロ代表作『オムツをはいたサル』は、ハンガリー、韓国、シンガポール、マカオ、フィンランドなどのフェスティバルに招聘、国内外10カ所のフェスティバルにて上演。

ダンスがみたい！新人シリーズ15〈新人賞〉受賞。横浜ダンスコレクション2017 コンペティションII 〈最優秀新人賞〉〈タッチポイントアートファウンデーション賞〉W受賞。

5./BODY.RADICAL International Performing Arts Biennial(ハンガリー)〈オーディエンス賞〉受賞。『踊る。秋田2017』土方巽記念賞ファイナリスト公演〈海外ゲスト賞〉受賞。

New Dance For Asia 2018 3rd Asia Solo&Duo Challenge Masdanza(韓国)〈NDA賞〉受賞。SAI Dance Festival 2019 COMPETITION 〈最優秀作品賞〉受賞。

夏目慎也(俳優)



1975年1月27日生まれ。愛知県出身。2001年東京デスロック旗揚げより参加。東京デスロック+第12言語演劇スタジオ『ガモメ カルメギ』、三条会『ひかりごけ 三編』、木ノ下歌舞伎『東海道四谷怪談一通し上演』、劇団しようよ『バフ』などに出演。自転車と釣りとガチャガチャが好き。

西田夏奈子(俳優)



撮影:朝岡英輔

女優/歌い手/バイオリン弾き。1974年生まれ、神奈川県出身。フリー。1999年より現在まで、舞台への出演多数。映画出演は杉田協士監督『ひかりの歌』(2018年)。小説の朗読ライブやバイオリンの即興演奏、詩人やダンサーとの創作、また『エビ子・ヌーベルバーグ』の別名で、ミュージシャンのサポートや邪魔をすることも。老人ホームでの介護予防運動インストラクターや、多摩美術大学演劇舞踊デザイン学科非常勤講師なども務める。出役が多岐に渡りすぎてまとめられないまま今に至る。近年の出演作は、庭劇団ベニ『蛸入道 忘却の儀』、木ノ下歌舞伎『糸井版 摂州合邦辻』、KJプランニングス『ザ・モニュメント 記念碑』、サインアートプロジェクト。アジア『残夏-1945-』、NODA・MAP『足跡姫』。

山田葉琳(ダンサー)



1995年生まれ。3歳からヒップホップをはじめ、その後ジャズダンス・創作ダンスを学ぶ。桜美林大学にて、コンテンポラリーダンスを木佐貫邦子に師事。大学卒業後はダンスカンパニーBaobab、笠井瑞丈×上村なおかなどの作品に出演。

米田沙織(ダンサー)



撮影:bozzo

東京生まれ千葉育ち。幼少よりクラシックバレエを習う。桜美林大学にてコンテンポラリーダンスに出会い、以後木佐貫邦子に師事。卒業後はダンサー/役者として活動する。2010年より「Baobab」に加入。初期メンバーとして企画運営に携わり、ほぼ全ての作品に出演。個人の創作活動も行っており、東京のほか別府、北九州、台北などで作品を発表している。

参加アーティスト・クリエイター from 富山

越中いさみ太鼓保存会



1133年(長承2年)、現在の富山県砺波市野村島鎮守桑野神社の神事に起因し、御神体安置の際に打ち鳴らされたのが始まりと伝えられている。昭和27年に富山県では最初の「保存会」を結成し、活動を始めた。それから県内外に数多くの出演をしてきており、平成25年には保存会結成60年を迎えた。

保存会結成以来、大人の部と子供の部があり、伝統継承に力を注いできた。子供の時からずっと参加しているものがほとんどで、大人になり自分の子供にも教えるような形で、親子で活動しているメンバーも多数いる。基本となる演奏は笛と地方に合わせて打ち込む北陸特有の曲打ち太鼓であるが、近年は古来のいさみ太鼓の伝統を基盤に、時代感覚を取り入れた新しいスタイルの曲も演奏し、活動を続けている。

ジャック・リー・ランダル(パペット)



アメリカ・ジョージア州アトランタ出身。

1995年より人形劇団「The Center for Puppetry Arts」で活躍。1999年に日米合作人形芝居「怪談-Kwaidan」で初めて来日し、日本でのさらなる活躍を熱望。

その後2003年再来日。富山県を拠点とし、各地で人形と影絵のパフォーマンスを上演している。

高岡第一高等学校ダンス部CAD



高岡第一高等学校Crazy About Dancing(CAD)キャップ

2008年6月創部、はじめは同好会として活動をスタート。

「ダンスに夢中な生徒が集まってほしい」と当時のメンバーでチーム名を決める。

ストリートダンスを中心に、型にはまらないダンスを追求。

2013年4月、米ロサンゼルス近郊のアーバイン市で開かれたダンスドリルの国際大会「ミスダンスドリルチームUSA/インターナショナル」のデュエット・トリオ部門で優勝。

その他、コンドルズ富山公演出演、E-girlsのLIVEツアー「Y.M.C.A.」バックアップダンサーなど様々な大会やイベントに挑戦し、発表の場をひろげている。

現在2年生6名、1年生6名、計12名で活動中。

パフォーマーハルキ



1978年富山県立山町生まれ。パフォーマー。パフォーマーハルキ事務所代表。

マジック、ジャグリング、クラウニング、ファイアーパフォーマンス、シャボン玉パフォーマンスの他、イベントの企画運営やプロデュースもこなす。

幼少期から人を楽しませることが好きで、「自分には何ができるのか?」を模索し続け、青年海外協力隊の参加や海外放浪の経験を活かし、独自のパフォーマンスショーを展開。

「見る人全てが笑顔に!」をコンセプトにしたオリジナリティ溢れる多彩なパフォーマンスは老若男女を魅了する。児童施設からパーティー、大規模なイベントまで、富山を中心に全国で年間200ステージを超えるショーを行っている。<http://www.magician-haruki.com/>

富山スペシャルコーラストヤマイメン

2019年「東京キャラバン in 富山」のために、富山のさまざまな団体で合唱を指導してきた久田潤を中心に結成されたコーラスグループ。